



東小学校便り

木 洩 れ 陽

HARUKA

令和6年12月9日 No.8

12月も半ばを迎えようとしています。寒暖差の大きな日が続いておりますが、季節は確実に冬真っ只中に入るところです。この季節になると、毎年インフルエンザ等の流行が目立ちはじめ、学校でも子ども達の感染予防に力を入れていきたいと考えています。

さて先日、5年生が稲刈りをしましたが、5年生の濱田君がその思い出を作文に書きました。紙面の都合で作文の一部を紹介します。

「いねかりの思い出」 5年 濱田憲誠

ぼくたちは、10月24日にいねかりをした。ぼくにとっては初めてのいねかりではない。だが大人数でするのは初めてだった。かまでするのも初めてだった。

今年の4月、おじいちゃんと話していると「今年は農協が田植えなどを担当するかもしれない。」と教えてもらった。おじいちゃんは毎年、東小学校の田植えやいねかりの担当をしている。毎年おじいちゃんが担当だと思っていたから、少し悲しくなってしまった。

そして時は過ぎ、田植え当日、おじいちゃんが来ればいいなと思って田んぼに向かった。すると田んぼにいたのは、何とおじいちゃん。ぼくは心の中で「ありがとう、じいちゃん」とつぶやき、田植えをはりきった。

またまた時は過ぎ、いねかり当日になった。だが、おじいちゃんがかかるかどうか分からなかった。実は、おばあちゃんが入院してしまったからだ。

田んぼに向かっている時、ふと前を見たら、やっぱりおじいちゃんがいた。毎日、毎日、自分のために、いや自分たちのためにこのいねかりの時間の準備をしてくれていたことに感しゃし、ぼくはがんばっていねをかった。いねは少し重かったが、おじいちゃんやおばあちゃん、みんなのために運んだ。おじいちゃんとの生活そしていねかりが、ぼくの大切な時間や思い出になった。



～11月の学校生活シーンより～

【ブックリサイクル活動】

【ボランティア感謝集会】

【もののけ姫プロジェクト】

